

編集後記

今月号の編集会議をもって、編集部が交代します。編集部を引き継いでから、この2年間、紙面の体裁を変え、活字を大きくし、2色刷りを導入するなどして、できる限り読者の皆様に親んでもらえるものを目指してまいりました。また、レビュー解説記事 (SKYLIGHT)、研究の最前線 (EUREKA)、話題の天文ニュース (ASTRONEWS)などを紹介し、アマチュアの意見を盛り込むことも心掛けました。みなさんは、新しくなった天文月報、どの様にお感じでしょうか？

天文月報の価値は、記事の丁寧さ、新しさ、面白さ、そしてその内容の信頼性にあると思います。これは、最新データをもとにして、その分野の専門家が細かい注意を払って書く記事だからできることで、他の雑誌では真似のできない点と自負しています。もちろん、原稿を執筆してくださった方々のご協力なくしては、実現できないことです。今後も、さらに内容の充実した面白い雑誌になるよう、皆様のご協力を願って止みません。

この2年間、月一回の編集会議は、編集作業に関連して、学問や学会の動向、文章作法、法律だのいろんな話題までもが飛び交い、活気溢れる楽しい場となりました。しかし、実作業では毎月追われるような状態でした。紙面の刷新以来、仕事の量も中身も異なってきた事が大きな原因です。このため、学会事務の塩見さん、野口さんにはいつも大変な思いをさせてしまいました。現在、月報編集の作業はマンパワーの限界のところまできており、編集部および学会スタッフの強化が切望される所です。残念ながら、現在のところ学会の財政状態が悪いため、早急な改善はかなりの困難が伴うでしょうが、いずれ解決しなければならない問題と考えます。一策として学会員や執筆者の皆さんのいっそうの協力が大きな効果をあげると思います。というのは、編集作業が増える大きな原因として、編集会議の時点で原稿が未着であるために、紙面構成や校正をやり直す必要に迫られることが多いからです。こんな事をいって、原稿を書いて頂けなくなると逆効果なのですが、記事集めと原稿到着がもっと円滑に行われれば、おそらく編集の労力の半分は減らすことができるでしょう。この辺の事情をご理解の上、これからは是非、御協力をお願いしたいと思います。皆さんの積極的な投稿は編集部の労力を軽減するばかり

でなく、「天文月報」の質的向上にもつながると確信しております。以前にも書きましたが、「天文月報」は天文学会員みんなで作るものです。みんなで、よりよい雑誌にしていこうではありませんか。

最後に、学会事務室の高地さん、塩見さん、野口さん、啓文堂松本印刷さん、本当にご苦労さまでした。

1991-2 年度天文月報編集委員一同

1993年4月20日

ASTRO EXPRESS 原稿募集

現在 **ASTRO EXPRESS** では論文雑誌に掲載された日本人の論文の要約を、研究速報という形でわかりやすく紹介して頂いておりますが、現在編集部でできる実務の限界等により掲載論文のチェックを、PASJ, Astrophysical Journal, Astronomical Journal, Monthly Notices of the Royal Astronomical Society, Astronomy & Astrophysics, Nature, Physical Review に限らせて頂いております。しかしながら、①チェックの不完全さ、②上記以外の雑誌に掲載された論文がぬけてしまうこと、③月報で紹介されるまでの時間 (論文雑誌に掲載→編集部でのチェック→原稿の依頼→執筆と送付→月報での校正→掲載までで最低8ヶ月を要する) を考え合わせますと、論文雑誌に掲載された時点で自主的に著者のどなたかが **ASTRO EXPRESS** の原稿を御投稿して頂ければ大変有難く存じます。これにより時間的には約半分短縮され、これまでの不完全さもかなり克服できるものと思います。原稿の分量は300-400字です。書式につきましては、1992年8月号以降の天文月報を御参照下さい。何卒宜しくお願い致します。

天文月報編集部

☆

☆

☆

☆

編集委員	佐藤修二 (編集長)、一本 潔、梅村雅之、奥村幸子、谷川清隆、堂谷忠靖、半田利弘
平成5年6月20日	発行人 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内
印刷発行	印刷所 〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12
定価 550円 (本体 534円)	発行所 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内
	電話 (0422) 31-1359 振替口座 東京 6-13595